

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 16番、対政会、大浦孝司でございます。

先だつての市議選で大変島民の皆様にお世話になり支持いただいたことを厚く御礼を申し上げます。

私は今回の選挙戦のこの4年間、どういうふうな思いで議員になりますかというふうなことを尋ねられたら、私はこの島の人口が約20年後にはおおむね、今から10年前の3万4,000人から約半分になる、1万5,000から1万8,000ぐらいの数字がいろいろな機関で出ておりますが、おおむね半分になる。これは大変なことです。今を4年間生きるだけではこれは駄目ということであり、先をどうするかということ今をうちにしっかり考えんやいかんし、今だけ生きてはいけない。かように私は思つて、若い人がこの対馬にどれだけ残るか。残るようにするか。これが一番大切なことでもあります。しまづくりの本部のほうは本土のいわゆるIターン、もしくは元島内出身の方を含めてUターン、いろいろ政策をしておりますが、私が一番大事なことは、今、対馬に親子として住んでおられる、ちょうど高校3年に当たる方々がこの島の自分の生家を捨てて本土に行つてしまい、あと誰も住まずに空き家になるということはどう思うかでございます。私、最近の状況をずっと見ておりますが、非常に子供も親も島に残るということあまり考えておらないようであります。これはなぜか。この島で自分の思ったような身の、いわゆる将来の身分、要は高い給料をもらつて安定した職に就く、このことがこの島に少し薄いような気がして最初から島外の展開に心を向け、その罪な家を捨てていくということあまり強く思わない、この現実を私はここに住んでおる両親、そして親、もう一度この島の先を子供にどうさせるか。私はぎりぎりいっぱい選択をしていただきたい、かように思います。

それでは、通告前に私、令和3年度5月31日末の対馬市の人口の集計、これは住民記録で数字が出るわけですが、この数字を皆さん、少し耳を傾けてほしいと思います。総人口2万9,269人、そのうち65歳以上の高齢者数1万455、35%、それから40から64の中堅層、これが9,241、31.5%、そして19歳から39歳までの俗に言う若手、若手は20代と思いますがあえて40までの方々を若手の部類とした場合、5,294人の18%、このようなことが働いておられる成人としての対象でございます。かたや、学校に通う高校生735人、これは16歳から18歳というふうな実質誕生日関係と学校の入学、卒業後の年代をちょっと度外視しまして16から18の計算、735人、2.5%に当たります。そして、中学生723人の2.2%、そして小学生6歳から12歳を対象に1,584名、5.4%、そしてあとは幼児でございますが、ゼロ歳から5歳まで1,206名、この構成により2万9,269人、こういう数字にあります。

問題はこの対馬に今後心配されるのは人口が半分になる、このことについては若い方がこの島に残らないということであり、このたびの一般質問ですが、義務教育の段階で最終的な進路の決定は下しておりませんから、非常に教育長の答弁も難しいところがあるかと思いますが、並行して高校生の方向と含めて義務許育の中学生がどうあるか、ここらについて非常に興味を持っております。できれば普通科の進学校、対馬高校、あるいは商業科、それから特殊な学部がございますが非常に島外からたくさんの方が対馬高校に来ておられます。ここらあたりも実態を把握した中で話を聞いていただきたい、通告の中で答えが出ませんが、どう思われますかという程度で結構ですが、そのようなことでございます。

通告に従い市政一般について質問を行います。

まず1点、ツシマテンの有害駆除についてお尋ねをいたします。

対馬新聞の昭和46年5月号で農林水産大臣の諮問機関である中央鳥獣審議会、これがツシマテンを含む24種類の野鳥を狩猟禁止といたしました。それから50年の歳月が過ぎる中、コウライキジは下島でほとんど姿は見られなくなりました。上島も一部生息が確認をされておりますが、かなりの激減の状況下にあります。昨年長崎県猟友会によりこれを補うために放鳥事業が開始され、羽数はわずかですが40羽が放鳥されました。しかし、ツシマテンの駆除が前提となっております。駆除の手続を取るために対馬猟友会が着手する方針であります。このことに対して市のアドバイスがあれば伺いたいと存じます。

先ほど申しあげました学校教育に係る社会学習の実態について、この内容について教育長から御答弁をお願いしたいと思います。ひとつよろしく願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 大浦議員の質問にお答えします。

ツシマテンの有害駆除についてでございますけれども、議員御存知のようにツシマテンは対馬のみ生息し、本州、四国、九州、朝鮮半島に分布するテンの亜種とされております。昭和41年に長崎県の天然記念物に指定された後、昭和46年に国の天然記念物に指定されております。コウライキジの放鳥に当たり、ツシマテンの駆除が前提とのことでありますが、これはコウライキジの減少がツシマテンの増加にあるとお考えのようではありますが、コウライキジの生息数が減少した原因の一部にツシマテンの可能性はあるものの、その因果関係は確認されていないことから、直ちに駆除につながるものではないと考えております。

鳥獣保護法によりツシマテンは狩猟対象や有害駆除の対象外となっており、駆除対象とできるかについて環境省対馬自然保護官事務所に御相談させていただきましたけれども、ツシマテンを駆除の対象とすることは現時点では困難ではないかとのお答えをいただいております。

文化財保護法の観点からにつきましては教育長のほうから答弁をさせていただきます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 大浦議員の御質問に文化財保護法の観点からお答えいたします。

国の天然記念物に指定されているツシマテンを滅失、または衰亡するにいたらしめることは文化財保護法の規定により固く禁止をされております。また、環境省においても準絶滅危惧種に指定されており、捕獲禁止措置など様々な保護措置が取られております。こうした評価は同じ国の天然記念物に指定されているツシマヤマネコと共通し、種としての希少さが評価されており、ツシマテンの駆除は法的に認められるものではありません。

2点目の学校教育における社会学習の実態についてでございますが、本市の小中学校においては全ての学校でふるさと学習を実施し、対馬の歴史や自然、文化、環境問題などを題材にした学習を行っております。その中でふるさと対馬を愛し、対馬のよりよい未来を想像することができる資質や能力の育成を目指しております。これらふるさと学習の中で子供たちは地域を通してみた対馬の特色や課題、将来の姿などについて学び合う学習に取り組んでおります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私の一般質問の通告書が詰めが少し足らなかったかというふうな感じであります。

手続なしに有害駆除するということは頭からありませんので、問題はこういうふうなことで激減しておる現状を要は文化庁あるいは環境省、文化庁が教育委員会の所管でありますから、それでそこに文書を要は猟友会から要望書もしくはいろいろな形で進達してそのような実態をまず把握されて、そしてもしそうであれば駆除あるいは数の調整をするべきではないかという意味で、当然手続はします。それはそれを駆除していかっち、こんなことはできないということは分かっているわけで、ほんでそのことについてちょっと昨日やったか電話がある方から入ったんですが、ちょうど国内でもニホンカモシカがその部類にあると、ですから増えすぎたものを調整するというふうなことをしていくことは当たり前であります。50年もほったらかしたわけですから、むしろその辺のことについて詰めをしたいという意味ですから、答えは要望書あるいは請願、その他の手続をして手続を具体的に進めると、かようなことでございますから、とりあえず市の教育委員会を經由して県庁、教育委員会、そして文化庁、こういうようなことに書類の進達があるだろうと、これは県の環境課のほうからちょっと問い合わせたらそうならんだろうかと、そういう中で今度は文化庁から対馬市もしくは県の自然環境部、こちらに実態を把握するようなことを指示があり、それから協議というようなことにならんじやろうかということでありました。ですから、当然難しいことであるなど、厄介な指定を受けたなということでございます。

ただし、それの中であれだけおったコウライキジが絶滅せまいということもこれも大きな話でありまして、ここは協議することは当たり前でありまして、当然地元としてはそういうふうな国への調整をお願いする、これは当然であります。

一応、そういうことで教育長答弁とそれから市長の答弁、先々はそういうことになりましたがよろしいですね。そういう方向で対馬猟友会が請願をしていくと、あるいは要望をしていくということでございます。

それで、難しい話ではあるということをちょっと昨日電話がありまして、しかし、数の調整は実態把握の中でやらないかん、これは当然でありますから何もしないということは許されん話でありまして、そういうふうなことは民主主義の世の中ですから私は当然実態調査には文化庁も指示をしていくと、かように思っております。いいでしょうか。お互い共通の一応、対応ということで、教育長どうでしょうか。そういうふうに思っておりますが、いいですか。（発言する者あり）文化庁へ書類を県経由で、対馬市教育委員会経由で出します。

○議長（初村 久藏君） 大浦君、手を挙げて。

教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 教育委員会経由で県を通じて国に出していくということですので、手続上はそれでいいと思います。ただ、さっき言いましたように認められるかどうかはまた別問題だろうと、駈除がです。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） そんなことはここで言いよらんとです。先々、国のほうに持って行く中で訴えますから、ここで結論は出ませんから、私が言いよるのはコウライキジが絶滅しよる、これは無視はできんわけで多くの皆さんからおかしいやないかということであっておりますから、そこらについて進みたいということですから、手続を取って堂々と訴えます。訴えるというか要望します、国に。数の調整をするということですから、いいじゃないですか、それで。この場ではそれでいいと思います。

以上で私のほうから。いいですか。いや、そのさっき、よろしいですか、今のことで。

○議長（初村 久藏君） 要望するということですね、猟友会で。

○議員（16番 大浦 孝司君） 市経由で県に行って、その後、文化庁に進達してやっていきます。

○議長（初村 久藏君） 何か答弁はありますか、それについて。

教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 手続的にはそうなるというふうに思います。

あと、また文化財課を交えてどういうふうにしていくかは検討をしたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） そういうふうなことでハードルが高いということは少し感じております。

義務教育の中で全校においてふるさと学習、このような科目を設けて地元対馬のいろいろな産業関係あるいはその全てのことについて学習をしておるといふふうなことでお聞きしましたので、それにちょっと耳を貸してほしいんですが、島内の就業者の実態を対馬高校、豊玉高校、上対馬高校、直接電話なりファックス資料をいただきまして、10年分ということであるんですが、豊玉高校だけが10年分のきちとした数字が出ております。あとは5年間みたいな格好やあります。

それを要約しますと、これは義務教育とは別ですが、対馬高校が150人の生徒が3年で巣立つわけですが、そのうち島に残った方が平均13人、これは5年分の数字です。豊玉高校が平均20人の高校3年生の方が島に残ったのが4人、上校36人の卒業生の中で残ったのが7名、平均1年間当たり24名の方がこの3校から残ったという数字であります。

それ以外の県内、県外の実業高校もしくは専門学校、そこらの数字はつかんでおりません。ただ、この対馬高校の場合は普通科、ちょっと義務教育とは外れますが、いずれここにつながるわけです。ちょっと耳を傾けてほしいと思います。普通科が261名、商業科70名、1年から3年の合計です。それから国際文化交流科、これは韓国の言葉やらいろいろなそういうふうな文化にまつわることを勉強して85名の方がおられますが、これはなんと島外生徒が73名もおられて、この学校の資料から見ますと今年の、これは意外に方向を非常に重視した方がおるんだなという中で、確かに普通科においては進学コースです。それで私が思うのは中学の中ぐらいから将来の進路を高校に行く、あるいは対馬を出る、あるいは学校を進学する内容も含めて中学の段階で私は事を決めておるんじゃないかというふうに思いますが、教育長、その辺は通告とは別ですが、実態がどういうふうに思われておるか。私が言うのは中学が決定する場所ではないと、将来の進学とか就職を。しかし生徒さんと親からいわせれば、中学の段階で方向は決めていかんとただ勉強だけするというふうなことで進学するなら別ですけども、その辺について教育長、どのように現実を捉えておるか、言葉を頂戴したいと思います。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 確かに今議員がおっしゃられるように中学校段階である程度の将来の進路計画といえますか、そういうものは全員とは言いませんけれども、そこを考えて高校選択をしているというのは実態だと思います。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私もそうならばなおさら中学の段階の、要は決断、非常に大事

な時期であると、その中で確かに進学する世帯、これは高校の場合、大学その他、専門学校とかあると思いますが、私は総合的に考えまして今の対馬に残らない理由というのが、若い方がどのように思っておるかということのをそれなりに自分なりに、島内に就職する現状をどのように見ておるんだらうかと、多種多様の就業の場所が少ない。第1次産業主体の要は産業構成である。給与水準が比較的低い。事業所の長期展望にやや期待感が薄いと思われるのではないかと。そして、産業の活性化についてももう少しもうかるような世界であるのかというふうなことが見られておるかもしれないと、ですから、自分の子供をこの島に残すことが幸せになるのか、あるいは外に出すのが幸せか。ここに親の気持ちが私はあるかと思うんですが、教育長、その辺どうでしょうか。通告外ですが、内容的に遠くから見て義務教育から見てそういうふうなことが少し伺えるかということのをちょっと問うてみるんですが、いかがでしょうか。少し産業構成の中で島に残ること自体が今の子供さんにぴったり合わないという現状、これを私は感じるんですが、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 例えば私は義務担当ですので高卒のことはよく分かりませんが、中学校段階での進路決定時の子供や親の意見では、今、議員が言われるようなことも含まれますし、一方では子供たちが将来こういうことをしたいとか、こういうスポーツをしたいとか、そういう部分も最近は多くなってきました。そういうふうにつけております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 今の言葉は重みがあると思います。非常に大切な言葉を申し上げられたと思います。そこが私はこの対馬市の方向というのを若い人に中心に政治を動かす方向を力入れることが私は今からの方向になる。そうしていかないと、この島の人口はこう下がっていますから、とにかく頭は上げないかんし、レベルに持って行く必要があると思います、まずはそれは若い人がこの島に残る思いを發することが幾つかでもあること。

ちょっと紹介します。令和3年6月13日に「対馬で働こう！ 対馬市お仕事説明会」、美津島町体育館、10時半から15時まで、高校新卒業者向け、そして一般、このような企画がございました。これは対馬振興局、職業安定所ハローワーク、そして対馬市、この3者が一体となってこの企画をしておりました。私はそこに参加する予定であったんですが、ちょっと工事の関係で今回見に行っただけで済んだんですが、なんと61名の高校生がおられました。私はこのとき思ったんです。希望もなければ来んはずやがなと、幾らか世の中が変わってきておることも考えながら地元の先ほどいろいろ勉強会が教育長のほうからふるさと学習のことがございましたが、対馬高校の学校要覧の中でESD対馬学を取組とか、この掘り下げた対馬をどう思うか、いろいろなことがあるが興味あるかという学習を高校の段階でもやっておられました。非常にいいこと

だなど、そしてただ単に外に行くんじゃないで、ここに残るためにどう生きていいか、どうその将来を見ようかという粘りを私は教育の現場にほしいと、ただ単に本土に就職していく、ただ単に進学を猛勉強、普通科科目をやって大学に合格するだけの世界じゃなくて、私はそのことについて仮に1回本土に行ってかなりの修行をして島に戻ることも私は教育の中のやり方だと思います。

その辺、教育長、高校の過程になりますけれども、1回外に出して戻すことを最初から決めておってやるということも私は手段だと思いますが、その辺御意見がございましたらいかがでしょうか。そういうことで事を力をつけて子供さんが島に戻って来る、そういうふうな勉強の指導の方法、教育方法、私は必要だと思います。どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 子供たちの進路に関して学校であるとか教育委員会が制限をかけることは私はできないというふうに捉えております。ただそういう中でじゃあ教育委員会として学校として何ができるのか。今、議員がおっしゃられるように私も子供たちには対馬に住んでほしいし、帰って来てほしい。そのために教育委員会としてやっていることは教育努力目標の1番目に「郷土を知り、愛し、未来につなぐ学びの充実」というのを掲げて、そしてふるさと学習を充実をさせていこうという取組をしております。ふるさと学習を充実させることによってやはり対馬の歴史であるとか自然、文化などについて、そのすばらしさを体感することによって対馬で生まれ育ったことにやはり誇りを持ったり、自信を持ったり、そういう子供たちを育てていきたいと、そうすることが対馬に残って対馬の将来を考える子供が出てきたり、また一旦外に出たとしてもUターンをしてくる子供たちが出てきたり、または帰って来なくても対馬の宣伝マンになれるんじゃないかなというふうなことで教育行政としてはふるさと学習の充実を図っているところです。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私は今の答弁やらその2つ前の答弁、これは非常に教育の在り方が義務教育の中で対馬に長期的にものを考え、どうかしてこの島に生き残る、こういう深さ、粘りが出てくるようなことになってほしいし、今の先ほど言いますように20数名の方々が島内就職、この数字だけじゃ何も言えません。やはり力をつけて帰って来るっちゅうことは非常に私は大事なことだと思います。すばらしい解釈を私は教育長の答弁はあったと思います。

これは通告にはありませんが、対馬市にやはりそこらの方向をひとつみ取って、いろいろな学校問題の子供さんの教育とそういう島に残るために意見があれば吸収して政治の一つのポイントにしていただきたい。かようなことを市長には別の機会にこのことを申し上げ、いろいろどうするならやるんですかというふうな場を私は今年のうちそういうことを実現してみたい。非常に教育長の答弁については私は深い考えを持っておられて、いい発言であったと思いました。

私も学校へ問われる方へとか書いておったんですけども、今の言葉で吹っ飛んだんですけど、その中に書いておったことはこの島に生き残る思いは最初から避けている子供があると、場合によっては家の存亡も仕方ないと、親子の判断がそれを決しておることもあったと、これでよいのだろうか、そのような在り方では対馬は悪い方向に進むと、要は人口が減るという意味です。そして、さっき言いますように18歳の若者に即戦力は大きくないが、一旦、本土で総合力を養い、島へ戻る、また島を出るときに何をなそうとするのか決めておくことが非常に大切なことである。そのようなことを私、書いております。

最後に、子供さん1人だけの幸せでいいということではなく、深い相互理解をする中での選択が苦しみながらあるべきであると、私、そういうふうなことを教育の場、今の話は高校にあるんですが、しかし、高校に行く前に義務教育の段階で大きな進路の方向が決めておりますから、両方に係る問題でありますので、その辺は御理解ください。これは一応、教育長のふるさと学習の考え方と将来の子供に対する島への思いということは十分理解できました。そういうふうなことであります。

これは余分ですが、対馬高校の学校のパンフレットを頂いた中で先ほども言いましたが、国際文化交流科、これは韓国の要は観光客が国内で最大、対馬にその実績があっております。そしてコロナの感染が収まれば、私は自然にこのことが復活すると思います。なぜならば、韓国の投資家は例えば厳原町の宿泊施設の一部、それから食堂食料、飲食店の経営、韓国資本が空き家には全部入っております。これは地元の方が抑える前に彼らのほうが早く手を打っております。そしておまけに運営事業、バスの運行、これも手をつけて、韓国の観光客の金を旅行会社が一手に全部やっていくというふうな感じであります。

私は島の人間がその辺を競争負けたら、この島はそういう島に将来脅かされることがあってはならない。ちゃんとして島の人間が、中核が担わないかんと思っているんです。そういうことが非常に子供の教育の中で私は今の歳の十五、六の段階からそういう教育、こういうことがあるぞということを教えるべきであって、そのために島にちゃんとして若い人がここの中におらないかんとこの思いを何とか植えてほしい。かように思いますが、教育長、最後ですが、それはあんまり私もその内容をいい話じゃないと思うんですが、やはり減ってしまえば外から人が来ると、これは私は非常に幾らかそういうことも学習の中で捉えるべきだろうと思います。これは私は本当に大切な話だと思いますが、これは答弁としては言わんほうがいいのかもかもしれません。一応、私の自問だけで止めておきましょう。いや、やっぱり教育長が言うたっちなればいろいろありましようから、私が言うのは減ってしまえば人が入って来るっちゅうことです。それが国内ならいいばってん、非常についでですから、あと五、六分ですから、悪い話じゃないんですけども対馬がどれだけよい島かというのは魚釣りの専門、クロ釣りからイシダイ釣りから……



○議長（初村 久藏君） 大浦議員に申し上げます。通告外にもう入っておりますので、簡単をお願いします。通告外の質問に結構多く入っておりますので。

○議員（16番 大浦 孝司君） いや、関連じゃないですか。

○議長（初村 久藏君） 簡単をお願いします。

○議員（16番 大浦 孝司君） いや、要は外部からの島のよさっちゅうのが相当皆さんが思っております。ですから、避暑地にしたいとかいう思いを持っておられます。魚釣りに行って1泊2日で帰って来られる、そういうことがあるということを知りたいなど、そういう教育もしてほしいなど、この辺でとどめておきましょう。

何かございますか、あれば、教育長、最後に。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） なかなか難しい質問だし、あまりそこに関して私が意見を言うべきではないかなと思いますけれども、やっぱり学校教育を預かる者としてはそういう加害、被害の関係ではなくて、今全部全ての小中学校で取り組んでいただいているのは朝鮮通信使の勉強は全ての学校でしてくれと、ユネスコ記憶遺産にもなりましたので、対馬の人間がそれを知らないことはおかしいと、それを通してやはり日本と韓国との関係についても友好であるとか、どう関わっていけばいいのかとか。世界的にもグローバル化をしていきますので、学校教育に関してはそういう広い視野といいますか、全世界がお互い連携をしながら今後の対馬だけではなくて世界の発展を考えていくような立場で教育はしていかなければならないというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私の一般質問は非常に心ある答弁をお聞きしました。子供に対する、島に対する、何とかしてお互いに外に出て行くばかりじゃなくて、よくよく勉強して残ることをまた考えようという思いでありますので、非常に私は教育の現場の中でその言葉が欲しかったと思っておりました。その言葉がありましたので、一般質問を私は目的を今日は果たしたような気がいたします。いい答弁をいただきました。

以上で、私の質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時からとします。

午前11時51分休憩

午後1時00分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。